



2024年4月



〈視覚支援 スケジュール〉

今月は視覚支援（スケジュール掲示）についてお話しします。うさぎ園では、活動の流れがわかるように、スケジュールなどを使って伝えています。

ご家庭で朝の準備がなかなか進まないお子さんの場合、スケジュールを使用し視覚的に流れを伝えていくことで、状況への理解度が増すことや、見通しをもって安心して過ごせるようになるかもしれません。また、見てわかることで自発的な行動にも繋がります。

その都度大人が見せながら言葉を添えて伝えていくことが大切です



2024年5月



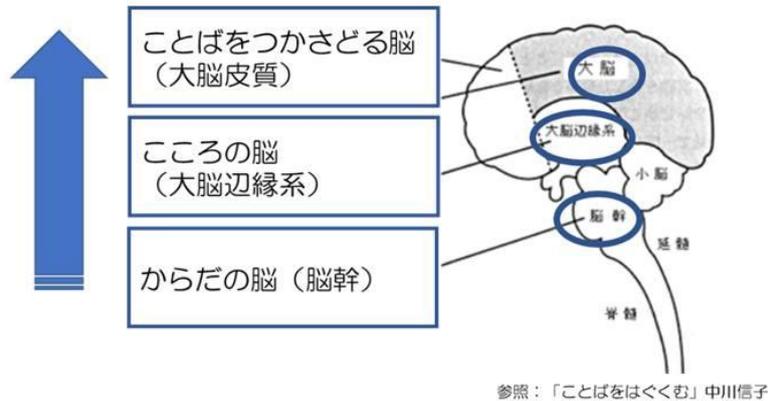
#### <職員研修>

児童発達支援事業所からの依頼があり、「発達検査の支援への活かし方」というタイトルで、うさぎ園の公認心理師が、K式検査データの読み解き方や、実際の検査、検査から見えてくる子どもの発達や姿などについて、講義しました。

うさぎ園では、児童発達支援事業所などに携わる支援者の支援も行っています。子どもたちを療育していく中での困りごと、疑問に思うことなどがあれば、うさぎ園までご相談ください



2024年7月



### <言葉の育ちと脳機能>

ことばの育ちは脳機能と関係しています。

ことばをつかさどる脳が働くためには、体の脳とこころの脳の育ちが必要です。

今回は、からだの脳を育てるためにできることを紹介します。

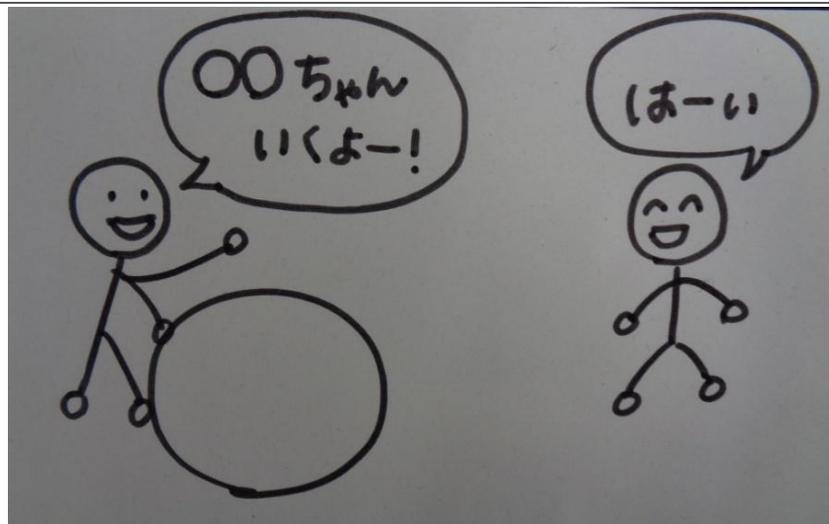
★生活リズムを整える。

★からだを動かして遊んだり運動したりする。このとき、体に心地よい刺激が入る遊びでお子さん自身が喜ぶものがお勧めです。

例えば、回転や加速度（滑り台）、揺れ、上下動（上下にぴよんぴよん）、触覚（くすぐる、お風呂でこする、抱きしめる）などの感覚遊びがあります。



2024年8月



<グループ療育 ボール転がし>

今日はグループ療育で遊んでいる「ボール転がし」について紹介します。

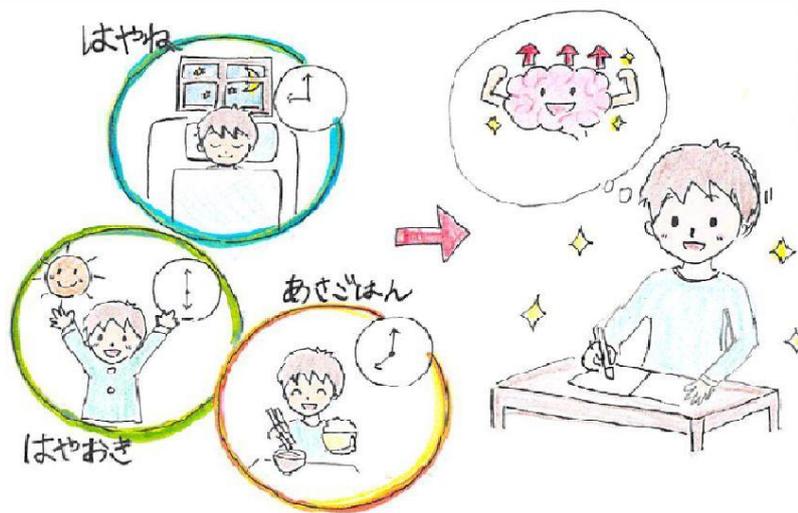
大きなボールを相手に向けて転がして渡す遊びです。

ただボールを転がすのではなく、ボールの受け渡しの際に相手の反応を見ながら声をかけるなど、相手を意識してコミュニケーションを取ることを大切にしています。

目標回数が続けられると、星マークを獲得することができます。制限時間の中、みんなでいくつの星を集められるかを楽しみに取り組んでいます。



2024年 10月



<脳が目覚めるために>

早寝・早起き・朝ごはんが大切だと言われます。

それは、身体も脳も目覚め、学習に最適な状態をつくれるからです。

こどもたちが『椅子に座れずうろうろする』『椅子をガタガタさせて座っている』

『鉛筆を噛む』、そんな時は脳が目覚めていないのかもしれませんが、落ち着かないように見える行動は、学習に最適な状態をつくるための努力なのかもしれません。

<脳が目覚める>、この視点からこどもたちの行動を見ることで、今までとは違うかわりの糸口が見えるかもしれません。



2024年 10月



〈コミュニケーション手段について〉

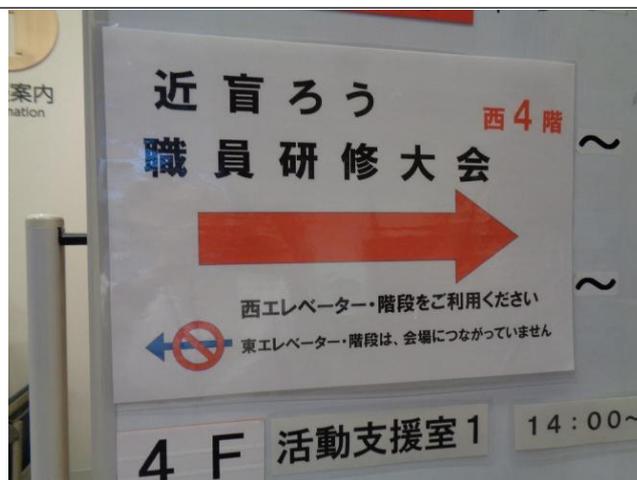
#### ①うさぎ園難聴部門の考え方

赤ちゃんから通い始める方がたくさんおられるうさぎ園難聴部門では、将来的には音声を用いたやり取りにもつなげていけるように、という目標を持ちながら、それぞれのお子さんの聞こえ、月齢や発達、生活環境などを考え合わせながら、親子のやり取りを応援しています。

音声、身振り、手話を中心に、伝えたい内容や場面に応じて絵カードや写真、実物などよりわかりやすいアイテムを併用します。少しでも、ストレスなく親子が伝え合い、理解し合えてコミュニケーションを楽しむことが、何よりも大切だと思っています。(次回の難聴部門からの報告に続きます)



2024年11月



#### <職員研修>

10月3日（木）に近畿を中心に難聴児通園施設や盲ろう児の入所施設の職員が集って研修や職員交流をCOCO・テラス4階研修室で行いました。

今年度の講演は、京都市児童福祉センター診療所長（児童精神科医）の上野千穂先生に「トラウマインフォームドケア」というタイトルでお話していただきました。トラウマインフォームドケア（TIC）とは、支援する多くの人たちがトラウマに関する知識や対応を身に着け、普段支援している人たちに「トラウマがあるかもしれない」という観点をもって対応する支援の枠組みです。組織全体がトラウマの知識を持ちその理解に基づく対応をし、子どもと養育者と支援者全ての安全を守り、再トラウマを予防することを目的としています。

研修大会は講義だけでなくグループワークや交流会もあり、意見交換を行ったり、それぞれの施設への理解を深め異なる視点からの学びも得られました。

今回の研修で得たことを、職員それぞれがうさぎ園を利用される方々に少しずつでも活かしていけるよう、努めていきたいと思えます。



2024年 10月



### 〈コミュニケーション手段について〉

#### ①うさぎ園難聴部門の考え方

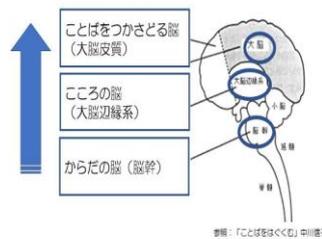
赤ちゃんから通い始める方がたくさんおられるうさぎ園難聴部門では、将来的には音声を用いたやり取りにもつなげていけるように、という目標を持ちながら、それぞれのお子さんの聞こえ、月齢や発達、生活環境などを考え合わせながら、親子のやり取りを応援しています。

音声、身振り、手話を中心に、伝えたい内容や場面に応じて絵カードや写真、実物などよりわかりやすいアイテムを併用します。少しでも、ストレスなく親子が伝え合い、理解し合えてコミュニケーションを楽しむことが、何よりも大切だと思っています。(次回の難聴部門からの報告に続きます)



2024年12月

ことばの育ちは脳機能と関係しています  
ことばをつかさどる脳が働くためには、からだの脳とこころの脳の育ちが必要です



今回はこころの脳（大脳辺縁系）を育てるためにできることを紹介します

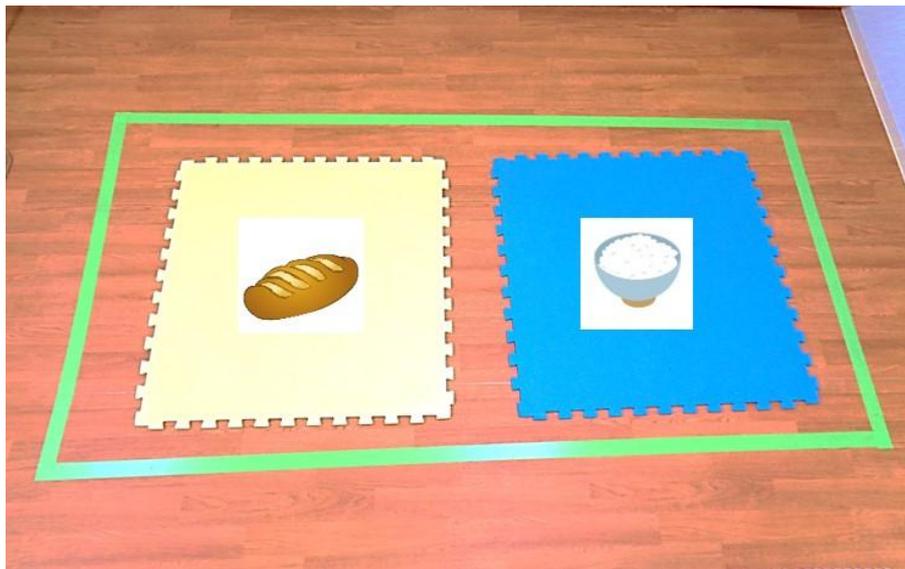
- おもしろいと思うこと、興味を持ったことは、すぐに覚えられるし、上手にできます。  
例えば、動物園に行って、キリンを見ました。一緒に注目している物や経験に対して、「大きい!」「すごい!」「楽しい!」と子どもの心が動いた瞬間に、大人がことばを添えることで、子どもはことばを覚えていきます。次の日、絵本にのっているキリンの絵を見たら、「あ、キリン!」と言えました。きちんと記憶の引き出しにしまわれていたのです。
- 安定した人との関係や情緒の安定も大切です。  
例えば・・・楽しい食事、おいしいおやつ、うれしい遊び、おもしろい経験、自分の気持ちを分かってもらえる安心感、大好きな人がいる喜び、ホッとする時間。



<言葉の育ちについて>



2025年1月



<好きなのどっち>

今回は、グループ療育で取り入れている『好きなのどっち』という遊びを紹介します。

「食べ物」「遊び」などテーマを決め、対になる2つの絵を用意してそれぞれマットの上に置きます。音楽が鳴っている間、マットのまわりを歩き、音楽が止まったタイミングで好きな方のマットの上に乗ります。お互いの好きなものを知り、共感しあえることをねらいとしています。



2025年3月



〈日光を浴びる大切さ〉

今回は「日光を浴びることの大切さ」のお話しをしようと思います。昔から「家にばかりいないで、外に出なさい。」とよく言われていましたが、日光を浴びることは生活リズムを作るために欠かせないことです。どういうことかと言うと、人の身体は日光を浴びることで夜に寝やすくなるホルモンのもとが作られます。この寝やすくなるホルモンが多いほど、夜よく眠れるようになるので、日中に日光を浴びてこのホルモンのもとをたくさん作ることが、質の良い睡眠を得るためにとても大切になります。暖かくなってきたら、ご家族でピクニックやお花見に出かけるのもいいですね。

ただ、最近（特に夏）は昔よりも気温が上がっていたり、紫外線が強くなっていたりして、長時間外に出ていると危険な場合もありますので、窓際や日陰で短時間だけ浴びるなど、その時々気候や個人の体質・体調などに合わせていきましょう。